

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	◎	観光名所（従業員）	来客数の動き	・外国人観光客、特に個人客の利用が増えている。直営の観光土産店では土産を両手に抱えて帰る客の姿も目立つ。過去の観光ブームで国内観光客が土産をたくさん買っていた風景を思い起こさせる。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・全業種的に売上が安定し始めている様子が見えてくる。コロナ禍前にはまだ及ばないものの、近い数字が出るようになっており、安どしている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は2022年比で147.1%、2021年比で214.8%、2020年比で244.2%、コロナ禍前の2019年比で131.9%となっている。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・シニア層や外国人観光客の来店が引き続き好調に推移している。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・外出の機会が増えていることもあり、衣料品に関する指標が上向いている。特にアウターや服飾小物などの動きが良い。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・11月の来客数は前年比104%となっており、2か月連続で伸びている。節約志向を踏まえてポイント付与企画を行っていることがプラスとなっている。
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・値上がりする商品数が減少していること、販売点数が以前よりも回復に向かっていること、来客数が前年並みであることなどから、景気は回復基調にある。
	○	スーパー（従業員）	単価の動き	・物価高の影響もあって客単価が上昇している。
	○	自動車備品販売店（店長）	単価の動き	・客の購買単価が上昇している。客は廉価品よりも質の良い商品を購入する傾向がみられる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・少しずつではあるが、来客数が増えつつある。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・一部ではあるが、海外団体旅行が復活している。国内団体旅行も、沖縄、関西、九州を中心にコロナ禍前の2019年と同等の水準まで販売量が回復している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・当社における11月のタクシーの売上は前年から12%の増加であった。日勤で前年から約16%の増加、夜勤で前年から約10%の増加であった。前年よりも乗務員が減り、タクシーの稼働も低下していることから、稼働状況を考慮すると、値上げした効果以上に売上が伸びている。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・冬季に入り、自転車を使用できなくなるなど、移動手段が限定されることもあって、タクシー利用に若干の増加がみられる。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・11月に入り客先からの受注量が落ち込んでいる。例年11月はそうした傾向がみられるが、今年は例年よりも落ち込み幅が大きくなっている。
	□	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・円安や物価高などの影響で、客の消費意欲が余り高いとはいえない状況が続いている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・商品の値上げの動きが落ち着き、商品単価の上昇に伴う売上増加も落ち着きつつある。来客数も維持できており、引き続き前年以上の売上となっている。
	□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・飲料や食料品など、目的買いの商品購入がほとんどであり、買上点数に伸びがみられない。おせちやクリスマスケーキなどの予約商材も例年と比べて低調である。しばらくはこうした傾向が続くことになる。
	□	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・11月は北海道としては気温が高く、降雪も少ない状況だった。これまでは必要な商品は買う傾向にあったが、冬らしくない気候が続いたことで冬物の動きが相当鈍くなっている。
□	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・エアコン、省エネ型給湯器など、省エネにつながるような商品の販売が好調であった。	
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量の動きに鈍さがみられる。車は高額商品となるため、個人需要については落ち着いた動きとなっている。法人需要についても、年末や年度末を控えて企業が資金調達に慎重となるタイミングであることから低調である。	

□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・サービス利用客が増えており、サービス部門の利益は確保できているものの、車の販売については、夏場の落ち込みがみられた後も落ち込んだままであり、現状も計画の8割を下回っている。車の納期がやや早くなっていることはプラスだが、全体的にみると厳しい状況にある。
□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・ボーナスの支給額が微増することが見込まれるが、物価の上昇幅を大きく上回るわけではないため、現状維持が続いている。
□	住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・前年からの減少幅が3か月前と同じような水準で推移している。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	単価の動き	・燃料油価格激変緩和対策事業による取引価格への影響が不透明で、翌週の仕入価格が上昇するのか下降するのか、見極めができず、販売価格の設定が困難な状況となっている。
□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・10月よりも売上がやや減りそうだが、水準としてはほぼ変わらない。11月は遅い時間帯の予約が少なく、予約のない客の来店も少なかったため、少ないスタッフで店を回すことができ、時短営業を行える日も多かった。また、落ち着いた料理提供ができたことで、客やスタッフの雰囲気も良かった。地方の飲食店については、繁盛店でも混んでいるのは早い時間帯だけであり、夜は早じまいする店も多い。
□	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客数が伸びている状況は変わっていないものの、日による繁閑の差が大きくなっている。
□	スナック (経営者)	来客数の動き	・11月の状況は、9月や10月とほとんど変わらない。今後の景気が良くなるかは分からないが、今のところは現状維持で推移している。
□	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・販売量については、可もなく不可もなく安定しているが、見込みを下回っている。
□	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・秋口の旅行需要は、北海道発の修学旅行需要が回復していることもあって、好調を維持している。航空需要全体で見ると、コロナ禍前のほぼ100%に回復しているが、ビジネス需要の喪失分を旅行や生活需要でカバーする傾向が継続しており、景気動向としては夏季繁忙期と同様の状況にある。
□	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・販売量が鈍化傾向にある。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・日中の利用客数に変化はみられない。夜間も飲食店帰りの客の利用に変化がみられない。観光客の利用は減少している。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・コロナ禍前と比べると、8割以上の水準に回復しつつある。ただし、これから冬に向かい、利用が落ち込むことが懸念されるため、今後の動向を注視している。
□	通信会社 (エリア担当)	それ以外	・通信キャリアの方針が変わっていないため、景気も変わっていない。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の多くは、マンションを購入する意志が強く、購入したい部屋を具体的に決めていることも多い。商談に要する時間も比較的短い。
□	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・建築コストが高止まりしていることもあって、消費者の購入マインドが頭打ちとなっている。
▲	商店街 (代表者)	単価の動き	・物価高の影響で客の財布のひもが固くなっている。
▲	商店街 (代表者)	お客様の様子	・客から景気が良くないと話を聞くことが多い。
▲	一般小売店 [土産] (経営者)	単価の動き	・全体的な値上げ傾向が続くなか、土産品においても前年から10%程度の値上げが行われている。一方、売上の増加幅は10%前後となっていることから、値上げ分を加味すると、ほぼ前年並みである。ただし、客1人当たりの購買点数は減っているため、若干ではあるが、買い控えが発生し始めている様子もうかがえる。
▲	一般小売店 (経営者)	来客数の動き	・業界全体的に通じることだが、来客数がとにかく少ない。

▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・数か月程と比べると、客の来店回数が減っており、来客数に落ち込みがみられるようになっている。ただし、客単価は上昇している。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価が高騰している一方で、実質賃金が目に見えて減少していることから、買い控えがみられる。
▲	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・冬物商材の最盛期を迎える時期だが、冬物商材の動きがとて悪い。成人式関連の商材に対する客の反応も鈍く、毎月の売れ筋が崩れてしまっている。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・暖房関連商材の販売台数が伸びてこない。
▲	乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・新型車効果がみられないなど、受注状況に弱さがみられ、前年を大きく下回っている。競合店の状況をみても同様である。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が発売されたにもかかわらず、3か月前と比べて受注量が減少している。メーカーの生産状況が回復し、受注残の車両が入庫してきたことで売上は増えているが、数か月先の売上の見通しは厳しくなりそうである。
▲	その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	それ以外	・9月に入っても30度近い気温の日が続き、11月に入っても雨の日が多いなど、異常気象と思えるような天候のため、客足が鈍化している。特に高齢者がメインターゲットとなる商売にとっては影響が大きい。
▲	その他専門店 〔造花〕（店長）	お客様の様子	・引き続き厳しい状況ではあるものの、開店や開業などによる仕事の依頼が増えている。ただし、定期受注につながるような内容ではないため、一時的な仕事で終わることが懸念される。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援が終了したことで11月以降の来客数と予約数が落ち込んでいる。特に地方の観光地では都市部と比べて影響が大きい。また、地方空港ではグランドハンドリングの人手が不足していることで、海外便が希望どおりに就航できず、インバウンドの回復が大幅に遅れている。そのことが現在の集客不足に拍車を掛けている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・物価高の影響が顕著にみられ始めている。客1組当たりの旅行単価が上がり続けている一方で、来客数は全体的に減少している。全国旅行支援が終了したことで、これまでの旅行需要の反動減もみられている。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・昼間の利用客は堅調に推移しているが、夜間の飲食店帰りの利用客が好転してこない。コロナ禍での消費者の行動が定着してしまったようである。
▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売促進費が10月と横ばいであるにもかかわらず、通信端末の販売量、ポイントサービスの加入数のいずれも大幅に減少している。北海道の減少幅は全国都道府県のなかでも目立つものとなっている。来客数の減少が大きな要因であるが、その理由については現在調べているところである。
▲	通信会社（エリア担当）	それ以外	・通信キャリアの政策が影響して景気はやや悪くなっている。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・必要な物やサービスにしか金を使わない雰囲気が顕著に表れている。技術売上は何とか前年並みの水準を保っているが、関連商品の売上は前年から30%程度の減少となっている。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価の上昇やガソリン価格の高騰が影響して、他のことを我慢しなければならないとの話を客から聞くことが増えた。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・時期的に天候の悪化する日が多く、欠航が増えている。観光客も減っていることから、全体的な輸送量が減少している。

	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・夜型飲食店は持ち直しているものの、忘年会シーズンにはまだ早いため、目立った売上アップは確認できていない。日中は、商店街区域内のバス停の乗降来客数や駐車場の利用者数が少なくなっている。暖房費の支出増加を懸念して、外出を控える傾向が強まっているためと考えられる。カラオケなど、若年層向けの遊興施設についても、冬休み前とあって顕著な利用の増加は確認できない。
	×	スーパー（店長）	販売量の動き	・現在の物価高の影響は大きく、景気は悪くなっている。政府が検討している1人当たり40000円の定額減税についても、1日当たりでは110円弱にとどまることから、効果を余り期待できない。
	×	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・住宅業界においては、建売住宅の売行きがととも悪く、住宅会社が相当在庫を抱えている。今後、在庫がさばける見通しが立っていないこともマイナスである。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・11月の販売量は前年比マイナス13%であったが、3か月前の8月の販売量は前年比マイナス37%であったことから、景気は良くなっている。
	◎	通信業（営業担当）	それ以外	・半導体製造企業の進出を受けて、当社及び周辺において、関連の問合せや案件が増加している。景況感の改善が強く感じられる。
	○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・若干ではあるが、青果物の輸出がようやく動き始めた。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・道内各地の初雪が平年より遅いこともあって、これまで降雪による目立った影響はみられていない。また、ここに来て、建設の追加工事が立て続けに決まったこともあり、完成工事高、利益共に、年度計画達成が確実となった。
	○	その他サービス業【建設機械レンタル】（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上の前年比をみると、10月まで4%弱の伸びであったものが、11月は5%強の伸びとなっている。
	○	その他サービス業【建設機械リース】（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は着実に増加している。ただし、受注単価が課題となっている。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と変わらない状況にある。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・トレーラー輸送について、一般雑貨に動きがやや出始めているものの、紙パルプ、生乳に引き続き弱さがみられている。10月に各種商品の販売価格が値上げされた影響もあって、輸送台数は前年を1割下回った。年内はこうした傾向が続くものとみられる。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・物流全般において、取扱量が伸びていない。特に輸入貨物については、円安が影響して毎月の前年割れとなっているなど、厳しい状況が続いている。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・インバウンドを始め、観光客数が回復傾向にあることから、観光関連業種の業況は改善している。輸入物価指数が前年比マイナスで推移していることで、企業物価指数の伸び率は鈍化しているものの、依然として企業からは物価高に伴う原価上昇や人件費増加による収益悪化を危惧する声が聞こえてくる。
	□	広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・11月は広告費への影響が余りみられない月であった。
	□	司法書士	取引先の様子	・新規の住宅着工は建築費の値上がりにより停滞している。住宅取得を諦める客が多く、代わりに賃貸の新築マンション需要が増えている。余り期待の持てない状況が続いており、今後の景気回復は政府の政策次第の面がある。
	□	その他サービス業【ソフトウェア開発】（経営者）	競争相手の様子	・この1年ほど、どこの同業他社も人手不足の状況が続いており、受注量を増やせない状態にある。
□	その他非製造業【鋼材卸売】（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上について、数か月前の予測をやや上回る状況がみられる。ただし、全体的な取扱量は減っており、前年の売上を下回っている。	

	▲	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・新設住宅着工戸数について、前年を下回る状況が続いている。見積件数も減少している。
	▲	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・建設費が高騰していることで、建設中止や延期の案件が増えている。それに伴って、設計案件も少なくなっている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・建築業及び不動産業の取引先については、冬季に入ることあっても、例年と同様に取引量が減っていく傾向がみられる。一方、価格を抑えた建売住宅などは、これまで取引量が堅調に推移していたが、最近になって減少傾向に転じている。
	×	—	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人企業数は3か月前と比べて減少しているものの、全体的な求人数は堅調に増えている。求職者数も底堅く推移している。求人企業における求職者との面接が3か月前と比べて3割増えるなど、企業における人材ニーズの高さがうかがえる。職種については、営業系のニーズが高く、企業が売上増加を狙って、人員体制を整えている状況がうかがえる。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求職者数の動き	・中途採用市場において、求職者数が減少傾向にあることから、決定率が低下している。その結果、求人数がますます減少するという悪影響が生じている。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・業種を問わず求人件数が減少している。観光客が増えているにもかかわらず、宿泊業や飲食業の求人件数が減少しており、これまで堅調だった建設業も鈍化している。人件費の高騰や物価高の影響が大きいとみられる。
	□	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・10月の新規求職者数は前年から4.1%の減少となったが、有効求職者数は前年から0.6%の増加とほぼ横ばいで推移している。一方、新規求人数は前年から9.0%の減少と9か月連続での減少となったものの、業況堅調な企業からは引き続き安定した求人数が公開されている。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・当地における10月の有効求人倍率は0.91倍であり、3か月前との比較では0.01ポイント上回った。
	▲	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・業種を問わず、求人数は3か月前と同等の水準又は微減で推移している。
	▲	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・5月中旬から、アルバイトやパートの求人申込が例年と比べて大幅に減少しており、今もその傾向が続いている。求職者においては、超短期のバイト、隙間時間でできるバイトが大人気となっている。
	▲	職業安定所(職員)	それ以外	・物価の上昇と実質賃金の低下が続いているなか、冬季を迎えて暖房費の支出が増加しており、景気が上向く要素が見当たらない。
	×	*	*	*